

平成28年度第6回経営協議会議事録

日 時 平成28年11月25日（金）14時00分～16時00分

場 所 事務局棟5階大会議室

出席者 泉、伊藤、岡部、塩田、杉田、野田、晝馬

伊東幸、石井、木村、東郷、前田、丹沢、伊東暁、鈴木滋の各委員

欠席者 大石、川勝の各委員

陪席者 鈴木庸、村松の各監事、青木学長補佐

I 前回議事録の承認について

平成28年度第5回経営協議会議事録（案）を原案どおり承認した。

II 審議事項

1 静岡キャンパス敷地の一部を静岡県へ有償譲渡することについて

前田委員から、静岡キャンパス敷地の一部を静岡県へ有償譲渡することについて、資料1により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

なお、前田委員から、国から出資をされた土地を譲渡するためには文部科学大臣の承認が必要なので承認が得られたら有償譲渡する旨、説明があった。

2 就業規則の一部改正等について

前田委員から、就業規則の一部改正等について、資料2により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

なお、前田委員から、過半数代表者及び労働組合に説明し、意見聴取した後に改めてメール審議し、役員会決定する旨、説明があった。

また、前田委員から、国家公務員給与法の改正法が制定された旨、報告があり、本学における検討状況について説明があり、対応については改めて提案する旨、説明があった。

（学外委員から出された主な意見）

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：国家公務員給与法の改正法を準拠する場合の本学の必要予算はいくらか。

△：約7千万円必要になるので他大学の状況や本学の予算状況を踏まえて検討したい。

III 報告事項

1 学長候補者の決定について

塩田委員から、平成28年10月17日に学長選考会議を開催し、次期学長候補者を石井委員に決定し、平成28年10月18日に公示した旨、資料3により報告があり、石井次期学長候補者から、抱負が述べられた。

なお、議長から、次期学長候補者の決定後に評議員より、次期学長候補者の決定

について学長選考会議議長の説明がほしい、また、経営協議会の議事を公表するよう依頼があったので、当人に学長選考会議議長からの説明については学長選考会議議長に直接言ってほしい旨、また、経営協議会に評議員も陪席することについては対応可能である旨、回答したとの説明があった。

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：学長選考会議議事録及び経営協議会議事録は公表しているのか。

△：本学オフィシャルホームページに掲載し、学内外の誰でも閲覧できるようにしている。

2 平成27年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

伊東暁委員から、平成27年度に係る業務の実績に関する評価の結果について、資料4により報告があった。

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：本評価システムは学長のガバナンスのツールとして活用できると思われる。

⊕：本評価によって予算措置が変わるのか。

△：第1期中期目標期間の評価結果によって第2期中期目標期間の運営費交付金の配分に影響があったので、第2期中期目標期間の評価結果によって第3期中期目標の運営費交付金の配分に影響される可能性がある。

3 財務レポート2016について

前田委員から、財務レポート2016について、資料5により報告があった。

4 平成28年度科研費採択の状況について

木村委員から、平成28年度科研費採択の状況について、資料6により報告があった。

5 文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」について

木村委員から、文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」について、資料7により報告があった。

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：本プログラムは産学官金が連携して実施するプログラムであり、中小企業やベンチャー企業を育てる必要があるので、産業界からも協力していきたい。

⊕：以前、行われた知的クラスター事業の経過を念頭に置くとともに、本事業の計画と実施をプロデュースする人の選任が重要である。

⊕：事業経費が本学に直接配分されることもあり、うまく活かしてほしい。

6 THE世界大学ランキングについて

東郷委員から、THE世界大学ランキングについて、資料8により報告があった。

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：日本語の論文はカウントされているのか。

△：論文についてはエルゼビア社のScopusに基づいて評価されているので日本語の論文がカウントされているのか調べるようにする。

⊕：このようなランキングを無視することはできないが、もっと大切な指標があるのでないか。

△：ランキングによって本学の教育研究を変えるつもりはないが、気にしておく必要はある。

7 高大接続システム改革会議「最終報告」を受けた本学における入試改革について

石井委員から、高大接続システム改革会議「最終報告」を受けた本学における入試改革について、資料9により報告があった。

(学外委員から出された主な意見)

〔⊕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⊕：入試は学部によって分けるのか、文系・理系で分けるのか。

△：国語や英語は学部によって違いは少なく、理科は文系・理系で違いが大きいなど、統一する部分もあれば、学部によって分ける部分がある。

⊕：高校は大学で決定したことを受け身の立場であるので、途中経過を高校へ情報提供してほしい。

△：高校の先生と話をしながら進めるようにしたい。

⊕：高校は大学の入試に気を使う。

△：入試センターの後継の試験と本学の入試の二つの試験を議論しなければならぬが、スケジュールは決まっているので準備を進める。

IV その他

1 静岡大学関連記事

議長から、静岡大学に関連する新聞記事について、参考資料により紹介があった。

2 広報誌「SUCCESS2016秋号」

議長から、広報誌「SUCCESS2016秋号」の紹介があった。

3 超領域研究推進本部ニュースレター

木村委員から、超領域研究推進本部ニュースレターの紹介があった。

4 その他

〔外〕：学外委員の意見等 △：本学側の意見・説明等〕

⑥：報告事項2の平成27年度に係る業務の実績に関する評価の結果に「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」は入っているのか。

△：COC+は平成27年度後期から始まったばかりなので平成27年度に係る業務の実績に関する評価には入っていないが、今後は入ってくる。先日、COC+の外部評価を実施し、A評価であった。

⑥：COC+を実施することによって地域に根ざした大学のプロモーションになるので進捗状況を経営協議会に報告願いたい。

△：COC+に関連して、地域創造学環が始まって約1年になり、知事が関心を持っていることもあり、平成29年2月2日に地域創造学環の学生をメインに講演をしてもらうことになっている。

以 上